

数え歌

いちかけ 二かけ さんかけて しかけて ごかけて ろくか  
けて 橋の欄干 腰をかけ 遥か向こうを 眺むれば  
十七、八のねえさんが お花と線香、手に持つて

姉さん姉さん 何処行くの 私は九州鹿児島

西郷隆盛娘です 明治十年三月三日

切腹なされた、父上さまの お墓参りに参ります

お墓の前で 手を合わせ なんまんだぶつ と拝みます

ひとりきた ふたりきた みつとるまに よつてきた

いつきた むかしきた なんしにきた

やかまし こんのかいど とおんな

囃し歌

陶器会社の 煙突は 丸くて 四角で 六角じゃ

越中富山の反魂丹 鼻糞丸めて万金丹 それを飲むもなあ

あんぼんたん

よしや よしでも 根性よしや いやや

しよんべんこーき ばりこーき 昼間こいても 夜こくな

なかんしょ かんしょ よしわら ひわら

新婚蓮根 生蓮根 煮ても焼いても 食われん 蓮根

そうだ そうだ そうだ 会社長の村長さんが そうだを飲んで

死んだそうだ 葬式饅頭が でっかいそうだ

葬式饅頭が あたらんそうだ。

おじゃみ(お手玉)歌

おじゃみ 日本がく みれば なつてくりよ とんけ

おじやみざくら

お一つ おといて おといて おさ

お二つ おといて おといて おさ

お三つ おといて おといて おさ

お四つ で おさら

お手ちよんで お手ちよんで おさら

おはさみ おはさみ おさら

おひだる だある おだるまさん

仲良しこよしで おさら